

「令和4年春の叙勲」 本市から2名の方が受章

内閣府は、4月29日付で「令和4年春の叙勲」受章者を発表しました。
叙勲は国家または公共的な業務に長年従事して功労を積み重ね、功績を挙げた方に授与されます。
本市からは2名の方が受章されました。
おめでとうございます。

きよくじつそうこうしょう 旭日双光章(地方自治功労)

大東地区 **武田 政英さん**

平成7年から平成29年までの間、串間市議会議員を通算6期23年務められ、議長や副議長などを歴任。高い政治信念をもって、串間市の経済、観光産業の振興および地方自治の進展に大きく貢献されました。現在は、大東地区の商工業者らでつくる「JAM大東振興会」の会長として、「まつり大東」の開催など、地域の活性化に尽力されています。

■コメント

今回の受章は大変ありがたいです。これも応援してくださった方々のおかげです。大変感謝しています。議員時代は「行政と一体となり、よりよいまちづくりを考えていこう」という気持ちで、日々活動してきました。今後も地域の活性化のために貢献していきたいです。



ずいほうそうこうしょう 瑞宝双光章(消防功労)

本城地区 **土居 亨さん**

昭和56年に串間市消防団に入団。40年の長きにわたり活動され、団長や副団長などを歴任。消防使命達成のため、高い信念をもって消防任務を遂行するとともに、団員の指導・育成や、市木地区活動拠点施設の整備など消防力の整備強化にも尽力されました。現在は、本城地区の地域連携組織「まちづくり協議会『チーム本城』」のメンバーとして、地域の防災力向上などに尽力されています。

■コメント

今回受章できたのは、家族や共に活動した団員など、皆さまの支えがあったおかげです。40年あつという間でしたが、住民の安心安全のため「団員一丸となった消防団」を目指し、常にコミュニケーションを大事にして団員育成などを行ってきました。今後も地域の防災力向上のために貢献していきたいです。



市長コラム

アジサイの季節

今年も梅雨の季節になりました。長雨が続くほど気持ちも晴れず嫌になってしまいます。そうかといって晴れが続くと、農作物への影響や生活水の心配を、ついには雨乞いをして雨を恋しがる始末。人間社会のためとはいえ、都合のいい考えは何ともお粗末なことですね。雨はわれわれにとって大切なものでありませんが、最近の大雨による災害は日に余るほどの大災害となるが増えています。これ以上われわれの生活を脅かすような大雨や台風などの災害が起きないことを願うばかりです。大規模災害は対策をしっかりと行っても万全に防ぐことは困難であります。被害を少しでも小さくできるように、避難場所の確認や備蓄品などの備えを行うなど、一人

一人が日頃から防災・減災への取り組みをお願いいたします。
新型コロナウイルス感染症の影響により、これまで多くのイベントや行事などが中止になっています。学校においても運動会や文化祭、修学旅行などが中止・延期されており、子どもたちの思い出作りが行えない状況が続いています。このことは学ぶ機会が減ることにもつながっており、将来を担う子どもたちに影響を与えるのではないかと危惧しています。
また、マスクを付けた顔は表情が読み取りづらく、コミュニケーションが取りづらくなり、心が機械化してしまうのではないかと心配です。その他にも同感染症はさまざまな影響を及ぼしていますが、コロナ自粛が引き起こす影響を改めて考え、市民一人一人の新たな生活環境整備に取り組みるときではないかと考えています。例えば梅雨の時期は嫌な季節としないで、ジューンブライド「日本晴れのアジサイ結婚式」を企画するのはどうでしょうか。ジューンブライドの由来



は所説ありますが、ローマ神話の主神ユピテルの妻ユノが6月を守る神であり、ユノは女性や子ども、家庭の守護神とされていることから、6月に結婚式を挙げると一生運にわたって幸せな生活を送れるということが一番有力な説のようです。またヨーロッパでは、3月から5月まで農作業が忙しい時期であることや、6月が1年の中で晴れの日が続くので、多くの人に祝福してもらえぬことから幸せになれるというような説もあるようです。
梅雨の季節もまた楽しい季節になるように、天気は雨でも心は晴れ晴れとして、食中毒などに気を付けて頑張っていきましょう。

地域おこし協力隊 活動日記



鳥の目と虫の目

No.62



甲斐 道仁さん

みやざき農業実践塾での栽培研修も終盤に差し掛かり、去年の8月にピーマンの種をまいてから育てているピーマンの樹も今では背丈2メートル以上に育ち、背伸びして収穫しないといけない程に順調に生長しました。幼苗の弱々しく暑さに負けていた頃が懐かし、気付けばちょっとやそっとの病気には負けないくらいに力強い樹となりたくさんの実をつけています。
しかし、ここに辿り着くまでにはさまざまな病害の危機がありました。育苗期でのコナジラミやヨトウムシの発生で定植時に本圃への持ち込みがあったため、じわじわと広がっていきコナジラミの分布の広がりに危機を感じ、まだピーマンの樹が小さくて探すことも可能だったのでヨトウムシは殺虫剤を使わずに捕殺で頑張っていました。イタチごっこでなかなか収束せず苦労が続いていました。
コナジラミが落ち着いてきたと思えば、居ると分かっていたが目視できなかつたアザミウマが目視できるほどになり、その増殖スピードは脅威でした。今回の栽培は就農して

からの栽培法を踏まえて、特別栽培の天敵農業導入型で行っており、害虫を捕食してくれるスワルスキーカブリダニとタイリクヒメハナカメムシを放飼して栽培しています。この2種類の益虫が上手く増殖してくれただおかげで、アザミウマの被害も1カ月ほどで落ち着きをみせて、その後は害虫被害に悩まされることなく栽培を続けることができました。
病気については特にかかりやすい、うどんこ病とは常に戦いの日々で、まん延させないために事前に予防し、広がってくれば治療も必要となり、再発しないように樹勢回復に努めての繰り返しです。その他にも青枯れ病や軟腐病なども経験し状況により対応の判断を強いられました。
昔、世界的ファッショングーザイナーのコンシノヒロコさんの講義を聴講して印象的だった「鳥の目と虫の目で服を見なさい」という言葉。全体を俯瞰しながら細部にこだわり、細部の作り込みで全体のクオリティを上げていきなさいとのお言葉ですが、農業でもこのことがとても大切だと思っ今日この頃です。